



第3次デジタル技術総合計画

Digital Transformation General Plan Vol.3

● デジタル技術総合計画の概要

執行部活動をより一層持続可能なものにするために、フィジカル（現実）空間の効率化（サステナビリティ・アセスメント）にとどまらず、サイバー（仮想）空間も最大限活用していくことを目的に定める。

● 第3次デジタル技術総合計画（Phase 3）

サイバー空間の拡大

◇1、1人1台 iPad のフル活用

G I G A スクール構想の一環で、文部科学省や岡山県は、学生に対してパソコンやタブレット端末の貸与・配布などの形式により「1人1台」の環境を整えようとしている。新見高校においては令和3年度入学生（17期生）以降全員がiPadを保持していることとなり、令和5年度に全校でその環境が整えられる。執行部ではそれらの機器を最大限活用できるように取り組みを進めていく。

○1、学校生活アンケートオンライン化

生徒会執行部内（執行部活動自己評価アンケート）と同様に全校生徒対象の執行部主催学校生活アンケートの完全オンライン化（Powered by Google Form）を目指す。

○2、N-Drive Online Service サービス対象拡大

一部メンバーのみとなっている現状に関して、校内におけるアクセス許可範囲を拡大し、執行部内における会議系活動のペーパーレス化を実現する。

○3、e-目安箱サービス開始

Google Classroom、Google Form を活用し、いつでもどこでも、そして人目を気にせずに目安箱を利用できるようなシステムを作る。スマートフォンが使用できない校内における意見投稿の機会を保つため、投書型目安箱（現在運用中）も継続し、より多くの意見を募ることができるようにしておく。

◇ 2、業務継続性の向上

不測の事態に備えを進める。

Google Meet、LINE Group Call を活用したオンライン会議をいつでも開催できる状況を構築する。また、停電等でサイバー空間にアクセスできない場合を想定し、N-Drive Non-Cloud（紙媒体保存）を一定の期間行うこととする。

◇ 3、その先の未来に向けて



Phase 4. さらなる技術革新への適応（第4次デジタル技術総合計画）

第3次計画の完了後、さらなる技術革新・サイバー空間の進化に対応するために作成する。

◇ 次のページに Phase 3 実現で目指す未来のコンセプトグラフを掲載する。

